

# 過疎地域での地域包括ケア実践に 外国人専門職の参画に関する 相互交流による探索的研究

成田 有吾 氏

三重大学 大学院医学系研究科 看護学専攻 教授



## 背景

本邦では、少子高齢化が急激に進行している。政府は不足する人材に対して、外国人を念頭においた施策を提示し始めた。一方、地域包括ケアシステムの議論に、外国人の参画については、まだ検討されていない。アジアや欧州の専門職からの日本の過疎地での地域包括ケアシステムの評価は未知数である。また、過疎地の高齢化の現状は、直近の都市部の未来像でもある。高齢化の進展に伴い、医療・介護の社会資源の相対的減少は都市部でも急速に進む。

三重大学看護学科は、過去5年、タイおよびドイツからの海外研修生を受け入れ、三重県の過疎地域での医療・介護を見学・体験させてきた。紀南病院は、医療資源の乏しい東紀州地域での地域包括ケアに取り組んできた。諸外国においても、資源の偏在と、人口の流出・都市集中が生じ、適切な医療サービス提供に困難がある。外国からの研修生は、相互交流を通して、自国と対照する感想を寄せ、関心は高い。

今回、申請者は、三重大学看護学科と紀南病院の協力を得て、看護学を専攻するタイおよびドイツからの研修生と教員に現地を体験させて、相互交流の継続のなかで、医療・介護の現状と将来の外国人の参入の可能性に関する探索的研究を立案した。

## 目的

三重大学提携校2校からの教員・学生を対象に、医療資源の乏しい過疎地域での地域包括ケア実践に外国人の看護師および介護士が参画する可能性に関して基本的要件を質的に探索する。

## 対象

研究内容を説明し、文書同意が得られた、日本側：三重大学看護学科教員・附属病院看護部職員・医療ソーシャルワーカー（MSW）等、紀南病院医師・同看護部職員・MSW等、および、外国人：タイ、チェンマイ大学看護学部教員・学生、ドイツ、カトリック応用科学大学看護学専攻および医療経営学専攻 教員・学生を対象とする。

## 方法

研究倫理委員会の承認後、研究を開始する。研究計画書および説明書・同意書は邦語・英語で、作成する。外国人への説明は、研究担当者が英語にて行う。2019年度三重大学看護学科の国際交流相互訪問の機会を利用し、本邦（三重大学附属病院、紀南病院）および提携校の地域包括ケア実践地域を訪問・地域交流等を実施後、対象者へのフォーカス・グループ・インタビューを実施する。使用言語は英語とする。電子機器録音を行い、質的研究の手法に則り各種因子を抽出する。内容分析にKH coder®を用い、意味内容の関連・頻度を検討する。総合的な結果を論文として投稿する。

## 期待される結果

医療資源の乏しい過疎地域での地域包括ケア実践に外国人の看護師および介護士が参画する可能性に関して、相互交流のなかで、具体化された基本的要件が抽出される。本邦だけの視点ではなく、アジアおよび欧州の現状を知る専門職からの視点は、外国人専門職（看護師・介護士等）の地域包括ケア参画に必要な要件を明示できる。また、相互交流のなかで研究チームが現地に赴き、外国人が提示した要件を体感できる。